

# 第6章 わかくす部門

## 中学部・高等部

### Ⅲ課程の研究

～中学部・高等部「国語科」、中学部「数学科」の年間指導計画の見直しと、中学部「国語科」の単元別指導計画表の活用～

## 1 研究の方法

### (1) 中学部Ⅲ課程国語科研究グループ（中心研究）

6月～7月	○中学部ⅢB課程国語科「年間指導計画」の見直し① ・昨年度作成した年間指導計画の単元配列の確認 ・実態に即した計画であるかの検討
8月～11月	○「単元別指導計画表」を活用した授業づくりの検討 ・単元別指導計画表の目標や取扱う内容、評価規準の検討 ・手立ての検討及び教材作成 ・模擬授業 ・研究授業及び授業研究会（11月12日） ○単元別指導計画表の作成（～3月）
12月～1月	○授業研究会反省 ・課題整理及び次年度に向けた共通理解 ○中学部ⅢB課程国語科「年間指導計画」の見直し② ・単元数及び指導時数の調整 ・他の指導形態との関連

### (2) 中学部Ⅲ課程数学科研究グループ

6月～7月	○中学部Ⅲ課程数学科「年間指導計画」の見直し ・各単元の指導時期や期間、授業の進め方の検討 （A案：各単元2か月完結案、B案：帯単元で長期的指導） ○B案における年間指導計画の作成
8月～1月	↓○「単元別指導計画表」の作成（～3月） ・単元別指導計画表の各項目の内容の書き方の共通理解

### (3) 高等部Ⅲ課程国語科研究グループ

6月～7月	○高等部Ⅲ課程国語科「年間指導計画」の見直し ・単元配列や単元に含まれる各教科の内容等の検討
8月～1月	○年間指導計画の作成 ○各単元に含まれる各教科の内容の整理と「単元別指導計画表」作成に向けた共通理解

## 2 研究仮説（中心研究）

平成30年度に作成した中学部段階の国語科「単元別指導計画表（スタンダード）」に、新たに学習グループに在籍する生徒の実態に応じた各段階の目標及び評価規準を加え、それを活用した授業実践や研究授業を通して、育成すべき資質・能力の三つの柱で整理した目標や評価設定が適切だったか、手立てが主体的・対話的で深い学びの視点に立ったものであったかを検証する。

実態差のある生徒が在籍する学習グループの国語科の指導における「単元別指導計画表」の活用は、各教科の目標設定や評価規準が明確となり、指導しやすくなるのではないか。また、指導時数、指導時期、学習活動、手立てなど次年度に向けた授業の反省をすることで、次年度の教育課程表編成につながっていくのではないか。

### 3 研究の実際

#### (1) 中学部Ⅲ課程国語科研究グループ（中心研究）

##### ① 中学部ⅢB課程国語科「年間指導計画」について

中学部ⅢB課程は、知的障害者を教育する特別支援学校の各教科に替えた教育課程で、一部、各教科等を合わせた指導を扱う学習グループである。生徒の実態として、扱う内容が小学部2段階から小学部3段階と実態に差がある。昨年度の研究成果物の国語科「年間指導計画」に沿って、各単元における単元別指導計画表（スタンダード）【平成30年度版】を活用して授業を実践してみると、以下の2点の課題が挙げられた。

ア. 「何を学ぶか」という観点から考えると、生徒の実態に対し、年間指導計画に配列された単元が多いのではないかと、また、内容が実態に見合っていないものもあるため、生活に般化する場面が想定しづらいのではないかと。

イ. 「何が身に付いたか」という観点から考えると、各単元で設定された指導時数が足りないのではないかと。

以上の課題を踏まえ、中学部ⅢB課程における国語科「年間指導計画」の見直しを行った。そして、一単元で学習する内容を身に付けさせるために、各学年10単元から13単元あった単元数を8単元に精選し、各単元の指導時数を増やした。精選内容は、以下表1のとおりである。

<表1 単元精選の内容と理由一覧>

単元名（学年学期）	精選の内容	理由
行ってみたいなこんな町 （1学年一学期）	削除	実態的に自分の住む町の理解ができていないので、他の町紹介は難しい。
友達に電話しよう （1学年二学期）	削除	実生活で電話を掛ける場面が想定しづらい。また、他の指導形態との関連付けも難しい。
なぞなぞを楽しもう （1学年二学期）	削除	言語発達から考えると、その面白さを実感できないのではないかと。紹介程度とし、単元としては扱わない。
読んで分かったことをまとめよう （1学年三学期）	二学期の「説明文を読みとろう」と関連付けて単元化	二学期に学習する単元の発展的な学習として位置付ける。
標識に親しもう（※1） （1学年三学期）	三学期の「印やマークの意味を理解しよう」と関連付けて単元化	標識と印やマークを関連させ、説明文の学習のなかで扱うこととした。
ローマ字に親しもう （2学年二学期）	削除	実生活に結び付きにくく、内容が難しい。
標識を知ろう（※1） （2学年三学期）	三学期の「いろいろな標識を知ろう」と関連付けて単元化	標識の役割を知り、知見を広めるための発展的な学習として位置付けた。
新聞を作ろう （3学年二学期）	二学期の「書類を書こう」と関連付けて単元化	学習グループに在籍する生徒の実態に応じた記事をまとめて新聞作りを行う。
文集を作ろう （3学年三学期）	三学期の「はっきり言ってみよう」と関連付けて単元化	自分が書いた作文を発表する際の注意点として内容を扱うこととした。
病院の役割を知ろう （3学年三学期）	削除	題材の内容が難しいため、実生活に結び付け、「標識を探そう」※1で内容を扱うこととした。

※1 標識を扱う説明文の単元を各学年三学期に位置付けており、1年「親しむ」2年「知る」3年「探す」と、発展的に配置した。また、扱う単元には他の指導形態と表2のとおり関連付けて相互に指導するようにした。

<表2 他の指導形態との関連>

単元（学年学期）	他の指導形態	単元名等
作ってみよう（2学年二学期） 新聞を作ろう（3学年二学期）	生活単元学習	調理実習をしよう
劇をしよう①② （2学年二学期、3学年三学期）	生活単元学習、特別活動	お楽しみ集会に向けて

その他、年間通して取り組む単元として、「日記を書いて発表しよう」「作文を書こう」「学校行事を知らせよう」「はがきや手紙を書こう」があるが、これらの単元は、関連する単元や各教科等を合わせた指導の各単元と結び付けて扱うこととした。

### ②単元別指導計画表【令和元年度版】の作成について

昨年度の研究成果物である単元別指導計画表（スタンダード）【平成30年度版】を基に「劇をしよう」の単元別指導計画表を作成した（資料1）。扱う内容は中学部1段階だが、生徒の実態は小学部2、3段階であるため、目標を中学部1段階に設置し、小学部2、3段階を追加設定した。また、スタンダード【平成30年度版】で設定されていた内容と、生徒たちが学ぶ内容は一致しているか等の意見を交わしながら検討した。

さらに、「中学部段階で育てたい力」についてもスタンダード【平成30年度版】に設定されているものが妥当かどうか、本単元でそれ以外の力は育めないかを検討した。

各題材については、「何を学ぶか」の観点から「①聞く」「②話す」「③なりきる」と、言語活動を通して言葉が表す意味や動きの知識を獲得し、主体的にせりふを言葉や動きなどで表現する姿を目指した展開になるように設定し、扱う資質・能力も【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【学びに向かう力・人間性等】が、題材が進むにつれて徐々に追加され発展させるようにした。

各題材における手立てとしては「主体的・対話的で深い学び」（※2）の視点で検討した。生徒の実態を踏まえ「どのように学ばせる」ことがより単元の目標を習得できるのかを協議しながら設定していった。そこでは「具体的な言葉掛け」や「言葉や状況をイメージしやすい教材・教具」「学びやすい場の設定」などがキーワードとして挙げられた。そして、これらの手立てが主体的な学び、対話的な学び、深い学びとどのように結び付くのかを資料2を基に整理した。

評価規準については、小学部3段階のものを設定し、小学部2段階や中学部1段階については、設定された小学部3段階のものを参考に個別の指導計画へ評価基準として設定し、記入することとした。

※2 本研究では、第25回長肢研大会において諫早特別支援学校が分科会で配布した資料2「平成30年度版 主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善の視点」を参考にした。

### ③「単元別指導計画表【令和元年度版】」を活用した授業実践について

研究授業では、「ないた赤おに」の劇遊びを通して、生徒たちが登場人物や新しい言葉と出会い、話の内容を教師が読み進める中で自分の配役やせりふの意味が分かって、自ら進んで楽しく学習に参加しようとする姿を目指した。

そして、研究協議では、以下の2点について協議を深めた。

ア. 主体的・対話的に学ぶ姿を目指した手立て等について

イ. 「単元別指導計画表【令和元年度版】」の活用について

ア. 主体的・対話的に学ぶ姿を目指した手立て等について

良かった点は、「自分のせりふの番だと分かるように生徒の顔写真や配役のイラストが準備されていた」という【活動の流れが分かりやすい点】、「注目させたい言葉や内容に対する説明が明瞭」「巨大絵本が見やすくて分かりやすく、生徒が教材と対話しながらせりふの番に自分で気付く場面が多く見られた」などの【活動が具体的で分かりやすい点】、また「教師とのせりふのやりとりが良かった」「生徒の反応に教師がすぐに反応していた」などの【子どもの発言を引き出す工夫がされていた点】などが挙げられた。その他【繰り返しの活動やパターン化した活動であった点】【生徒の興味関心が高まる教材が準備されていた点】【生徒の好奇心が高まる教材であった点】【言葉だけでなく表情や動作を用いた表現の工夫ができる環境を整えていた点】【場面に応じた言葉の使い方や声の大きさの提示がなされていた点】などが挙げられた。

一方、改善してほしい点は「『読む』観点で、文字の大きさや生徒と教材の距離は適切だったか。見えていなかったのではないか」「活動の流れが一本調子のため、『今、頑張る所』の意識がもちにくかったのではないか」「机がない方が動きに伴った言葉が発しやすく、声の調整など、より役になりきることができるのではないか」など【主体的に学びに向かう場の設定等の点】、「生徒によってはもっとせりふがあってもよかった」「言葉の意味と動作をどの程度理解できていたのか」「生徒同士が見合える場の中で『今、何している?』などの発問を投げ掛けることで形成的評価ができたのではないか」など【生徒の実態に即した目標や課題、評価の設定の点】、「教師対個々の生徒の関わりが多かった。集団におけるグループ学習ならではの友達同士の学び合いの場、友達がせりふを言う様子を見ることが必要だったのではないか」「登場人物の人形を活用したストーリー展開や言葉のイメージを生徒が思考する場面がもててなかった」などの【対話を取り入れた学習環境や授業展開の点】について挙げられた。

イ. 単元別指導計画表『令和元年度版』の活用について

良かった点は、「単元全体の意図、授業展開が一枚に整理されていて見やすい」「生徒の実態に差のある学習集団における一斉指導をする上で、段階ごとに目標や評価規準が設定されており分かりやすい」「主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた手立てにおいて、諫早特別支援学校の資料を用いてその手立てを意識したのかが整理されていたので分かりやすい」などが挙げられた。

改善してほしい点は、「獲得した言葉やジェスチャーは日常生活のどのような場面で生かすのか」という本校の育てたい力との関連事項や、扱う教材「ないた

赤おに」の小学部、高等部とのつながり（小中高の内容の系統性）、「実態的に『読む』ことが難しい生徒だが、学習活動の欄に『せりふを読む』と書いている以上は、読むことに関する手立てがあるべきではないか」という手立ての内容について、「せりふ、言葉の捉えや発声、身振り理解度の規準設定や見極めはどのようにするのか」という評価規準や個別の指導計画とのつながりについて挙げられた。

(2) 中学部Ⅲ課程数学科研究グループ

これまでの数学の指導は、年間指導計画の別表（資料3）を用いて、生徒の実態に即し、内容をAからFまでの6段階に分けて指導していた。6段階の内訳は、Aが小学部1段階（小学部1年）、Bが小学部1段階（小学部2年）、Cが小学部2段階（小学部3、4年）、Dが小学部3段階（5、6年）、Eが中学部1段階（中学部1年から2年）、Fが中学部2段階（中学部2年から3学年）で扱う内容となっていた。課題として、下記の2点が挙げられた。

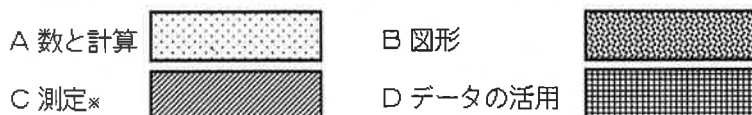
- ア. 各学年でどの時期に、どの内容を、どのくらいの時間を掛けて指導をするのかの明確な記載がない。  
 イ. 3年間で扱う内容が系統的に配列されていない。

以上の課題を踏まえ、別表の内容を単元化し、学年別の系統性を重視したⅢ課程Aグループの年間指導計画を作成し、加えて、次年度からの単元別指導計画表の素案を作成した。

① 中学部Ⅲ課程Aグループ（※3）数学科「年間指導計画」について

年間指導計画の単元配列の組み立て方、並びに各領域の内容を踏まえて単元化することとした。年間指導計画の単元配列の考え方として以下の2案が挙げられた。（図1参照）

指導事項のそれぞれのまとめり = 四つの領域（特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）p.304）



※中学部2段階では、領域Cが「変化と関係」となっている。

<A案>  
各領域の指導時期を  
月単位に区切った単元配列

	4月 (3週)	5月 (4週)	6月 (4週)	7月 (2週)
数学 (週537)	A 数と計算	B 図形	C 測定	

<B案>  
領域の「A 数と計算」を  
年間通して取り組む単元配列

	4月 (3週)	5月 (4週)	6月 (4週)	7月 (2週)
数学 (週537)	A 数と計算			
	B 図形		C 測定	

<図1 年間指導計画の各単元の配列>

A案、B案、どちらの単元配列にするのか、数学科の特質や生徒の障害特性を考慮しながら検討した。中学部Ⅲ課程数学科の領域には「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」「D データの活用」の4つがある。「A 数と計算」の内容は、他の領域を学習する上

での基盤となる内容を含み、それら領域と深く関わっているため、同じ時期に必要な内容に関連させながら指導することは、学習効果を向上させる点でも肝要である。また、生徒の実態として、一旦身に付いた内容でも時間が開くと、忘れてできなくなることもあるため、基礎基本である「A数と計算」の内容を反復し、確実に定着させる必要がある。

以上のことから、B案にすることとし、週5時間の授業で、表3のように時数配分を「A数と計算」を4時間、その他の領域を1時間ずつにすることとした。

<表3 1学期の数学科の週時程（イメージ）>

月	火	水	木	金
A数と計算 I	A数と計算 I	A数と計算 I	C測定	A数と計算 I

※3 知的障害者を教育する特別支援学校の各教科を扱う学習グループ

## ②単元別指導計画表の作成について

様式については研究部提案のものをベースに作成し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った手立てについて協議した。（表4参照）

<表4 1学年「C測定」の「単元別指導計画表」抜粋>

学習内容	手立て（・）指導上の意図・留意点等（※）	教材
(ア) 目盛りの原点を対象の端に当てて測定すること。 (イ) 長さの単位や重さの単位について知り、測定の意味を理解すること。 ※(ウ) 以下は2学年で扱う。(ますを使った計量)	(ア) について ・透明な定規を使用させる（長さ）。  (イ) について ・長さ（cm）をはかるときは、1cm単位で目盛りに赤色を付ける。 ・mmを測定する際、透明な定規の1mmごとに赤色で塗る。 ・目盛りを読み取らせる際、iPad等で撮影し、画像を拡大して読み取りやすくする。 ・重さについて、1gや1kgの重さを実際に持ったり背負ったりして、重さの感覚をつかませる。 ・重さ・長さを測定する際は、スタートをゼロに合わせさせる。 ・保健室で自分の体重・身長等の測定を通じ、日常生活とのつながりを意識させる。 ※はかり…デジタルとアナログのそれぞれについて、使いやすさ・使いにくさ（それぞれの特性）に応じて使い分けたり、計れたりさせる。 ※目盛りの読み取りの際には、生徒の目の高さに合わせる。 ※アナログ…測定する前に目盛りの最小値を確認させる。	・透明でゼロスタートの定規 ・iPad ・デジタル／アナログのはかり

学習内容については、学習指導要領に記載された内容を転記したままであり、今後、具体的な学習活動を設定する。手立てについては、肢体不自由のある生徒の「空間を捉えることが苦手であることで、図と地の区別がつきにくいこと」などの障害特性を踏まえて記載した。

### (3) 高等部Ⅲ課程国語科研究グループ

#### ① 高等部Ⅲ課程国語科「年間指導計画」について

これまでの年間指導計画における単元配列は、各学年が同単元配列となっており、別表から実態に応じた内容を扱って指導していた。また、扱う教材である教科書に指導書がなく各題材に含まれる内容が不明確であるため、指導する教師によって扱う内容が様々だった。そこで、高等部1、2段階の内容を踏まえて、1年生から3年生までの系統的な単元配列となるスタンダードな年間指導計画を作成することとした。具体的には、1年生は高等部1段階、2年生は高等部1から2段階、3年生は高等部2段階の内容で整理した。

単元配列については、①集団における指導が難しいという課題や、②行事や他の指導形態と国語科との内容を関連付けながら、各学年の年間の単元配列及び単元における指導時数を検討した。

例えば、①の集団における指導が難しい点については、Ⅲ課程内の個々の実態に差があるため「表現力を高めよう」という単元を設定した。本単元は、文字や言葉の「読む」「書く」「話す」などの基礎・基本の内容から、電話の利用の仕方、辞書の活用、作文などの実践・応用の内容まで多様であり、様々な実態の生徒に柔軟に対応できるため、授業の導入や個別の課題学習及び確認テストなどを扱う。

また、②の行事や他の指導形態と国語科との内容を関連させる点については、先述した「表現力を高めよう」や「手紙を書こう」「あいさつや会話をする力を高めよう」と、生活単元学習の「職業進路」を関連付けて指導することで、学習効果を上げることができるようにした。

#### ② 単元別指導計画表の作成について

今年度は単元「新聞を作ろう」を基に高等部における単元別指導計画表の書き方の共通理解を図った。高等部では、単元別指導計画表に掲載する単元目標や評価規準を、在籍する生徒の実態に応じた段階ではなく、高等部1、2段階で設定するスタンダードな計画表を作成することとした。また、手立てや配慮事項についても、肢体不自由における主な障害特性を踏まえ、考えられる内容を記載することとした。個々に必要な手立て、合理的な配慮事項や段階に即した目標や評価基準については、個別の指導計画の中で扱うこととし、単元別指導計画表と個別の指導計画の内容を整理することで、職員の仕事の効率化を図った。(資料4「新聞をつくろう」単元別指導計画表参照)

## 4 一年間のまとめと今後の課題

中学部国語科グループは、各単元における単元別指導計画表【令和元年度版】の一つ一つを検討する時間はなかったが、研究授業に向けた単元別指導計画表【令和元年度版】の作成を通して、目標や評価規準の設定方法、学習活動と育成すべき三つの資質・能力の柱の関連性や、三つの資質・能力を身に付けさせるための手立てや方法等について共通理解を図ることができた。実態差のある学習グループで一斉指導する上で、単元別指導計画表の中で段階ごとの目標や評価規準の設定と、学習活動に応じた手立てを検討したことで、指導する教師の授業に対する見通しがもて、形成的評価もしやすくなった。また、次年度



に向けた授業反省では、指導時数の調整や各段階における学習活動やその手立ての振り返りができ、次の単元別指導計画表の作成や年間指導計画、教育課程表編成につなげることができた。今後も、単元別指導計画表を活用した授業実践を通して、作成した教員だけではなく、活用する全ての教員がその活用方法について理解し、よりよいツールとなるよう改善していくことが大切である。

中学部数学科グループでは、数学科の特徴や生徒の実態を考慮した単元配列で年間指導計画と各単元の単元別指導計画表（素案）を作成することができた。今後は、単元別指導計画表（素案）を基に各単元における単元別指導計画表を作成し、その計画表を活用した授業実践を通して単元の目標設定や手立てが適切だったか等の課題を見出し、授業改善をしていくことで、年間指導計画や教育課程表の再構築をしていく。

高等部国語科グループでは、系統性のあるスタンダードな年間指導計画が完成し、1単元の単元別指導計画表（素案）を作成した。今後は単元別指導計画表（素案）を基に各単元の単元別指導計画表を作成しながら、授業実践を行っていき、中学部数学科グループ同様の課題を見出していくとともに、小中と単元間の内容がつながるように整理していく予定である。

#### < 参考資料 >

- ・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）平成30年3月 文部科学省
- ・文部科学省著作本知的障害特別支援学校編「こくご☆☆☆☆」 文部科学省
- ・各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ 平成28年4月 中教審教育課程部会資料
- ・くらしに役立つ「国語」 東洋館出版社
- ・平成30年度版<主体的・対話的・深い学びに向かう授業改善の視点>長崎県立諫早特別支援学校

国語科指導計画表		単元名	【劇をしよう】	指導時期	(10)月～(11)月
中学	部段階で育てたい力 ○集団における役割を理解し、協力して取り組む。(②他者との関わり ウ。集団への参加)	①「お話を聞こう」(2時間) 10/15,18	②「せりふを言ってみよう」(8時間) 10/23,25,29,11/1,5,7,8,12	③役になりきろう(5時間) 11/14,15,19,21,22	
小学部2段階	小学部3段階	小学部1段階	小学部2段階		
単元目標	<p>身近な大人や友達とのやり取りを通して言葉には事物の内容を表す動きや、経験したことを伝える動きがあることに気づくことができる。(7-7)</p> <p>文書を読んだこと伝えたり、感想を持ったりすることができる。(0-1)</p> <p>物語文を読んで、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することを楽しんだり、言葉を使って自分の見聞きたことを考えたり、様々な相手と気持ちを共有できる。</p> <p>新しく出会う「にっこに」「びっくり」などの言葉や、その言葉の表す意味やその言葉と動きの関係性を意味付けること。</p>	<p>身近な人との会話や読み聞かせを通して言葉には事物の内容を表す動きがあることに気づくことができる。(7-7)</p> <p>登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすることができ。(0-1)</p> <p>新しい言葉や表現方法を得ながら、言葉を使ったやり取りを楽しんだりすることができる。</p>	<p>身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることができる。(7-7)</p> <p>絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすることができる。(0-1)</p> <p>言葉を使って自分の気持ちを表現しようとしていたり、言葉の意味を感じてジェスチャー等で表現しようとしていたりすることができる。</p>		
見方・考え方					
【学習内容】○学習活動	【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮	【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮	【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮		
題材①	○教師の読み聞かせを聞く。(知識・技能)	○登場人物や語について知るために、「笑った赤鬼」「怒った赤鬼」「泣いた赤鬼」はどれか?と問い、登場人物をイメージさせる。	○物語に出てくる言葉に興味や関心をもつために、「にっこに」「びっくり」などを抑揚を付けて読むことで言葉のリズムや面白さに気づかせる。		【教材】 ・「ないた赤鬼」の手作り大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ・言葉カード ・登場人物の人影
題材②	○物語の中に、「にっこに」「びっくり」などの言葉があることを知る。(知識・技能)	○物語に出てくる新しい言葉や自分が発する言葉を知るために、大型絵本を使用し、言う言葉を確認して表示したり、言う前に生徒の前で顔写真を指さしながら、問を置いたりして自分の役や発する言葉に気づかせる。	○「にっこに」「びっくり」などの言葉や赤文字で提示して見やすくしておく。		【教材】 ・「ないた赤鬼」の手作り大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ・言葉を表すイラスト ・登場人物の人影とお面 ・マイク(玩具)
題材③	○場面ごとの自分のせりふを言う。(思考力、判断力、表現力)	○「にっこに」「びっくり」など抑揚を付けて読むこと、文字やイラストを見て、これらの言葉や動きを言うこと、身体や表情で表わしたりすることができたか。	○「にっこに」「びっくり」など抑揚を付けて読むこと、文字やイラストを見て、これらの言葉や動きを言うこと、身体や表情で表わしたりすることができたか。		【教材】 ・「ないた赤鬼」の手作り大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ・言葉を表すイラスト ・登場人物の人影とお面 ・マイク(玩具)
単元評価	知識・技能(3段階)	○「にっこに」「びっくり」など抑揚を付けて読むこと、文字やイラストを見て、これらの言葉や動きを言うこと、身体や表情で表わしたりすることができたか。	主体的に学習に取り組む態度(3段階)		
次年度に向けて	項目	評価(◎○△)	次年度への課題		
	指導時数、指導時期	△	学習内容が3段階寄りになり、2段階の内容を学習する生徒には時数が足りていなかった。		
	見方・考え方	◎			
	目標、評価、学習内容、手立て	△			
	教材、場の設定	△			
	育てたい力	◎			

## 〈資料2〉

平成30年度版

主体的・対話的・深い学びに向かう授業改善の視点

長崎県立諫早特別支援学校

### (1) 主体的な学びに向かう視点

#### ①安心して取り組める

- ア 教師と子どもの信頼関係ができています
- イ 失敗や間違いが受容される  
(支持的・協力的な雰囲気や学級づくり)
- ウ 集中して取り組める学習環境(湿度、温度、騒音等)が整えられている
- エ 全ての児童生徒が学び合いに参加している

#### ②学習の見通しがもてる

- オ おおまかな単元の構成や1時間の授業の流れをわかりやすく示している
- カ 学習活動の具体的な内容や取り組み方を分かりやすく伝えている
- キ 授業や学習活動の始まりと終わりがわかる
- ク 繰り返しの活動やパターン化した活動が効果的に展開されている
- ケ 本時のめあての確認がされている

#### ③学習意欲が高まる

- コ 興味関心の高まる学習活動や教材が準備されている
- サ 好奇心や探求心が高まる題材や学習活動が組み込まれている
- シ 子どもの特性や長所が生かされる学習活動が工夫されている
- ス 友達と切磋琢磨したり、競ったりする活動場面がある
- セ 静的な活動と動的な活動が効果的に展開されている

#### ④達成感があり、自己肯定感が高まる

- ソ 子どもの実態や発達段階に合わせた学習目標が設定されている
- タ 子どもにわかりやすい学習活動のめあてや個人目標が設定されている
- チ 自分で活動を選択したり、取り組み方を決めたりできる(自己選択・自己決定)
- ツ 学習の取組状況や達成状況が適宜評価される(形成的評価の充実)
- テ 多様な評価(他者評価、自己評価、ビデオ等による評価等)が活用されている
- ト 課題に対して児童生徒が自ら振り返っている

### (2) 対話的な学びに向かう視点

#### ①対話しやすい学習環境

- ア 教師の声の大きさや話すスピードなど聞き取りやすい
- イ 発表の仕方や友達の意見の聞き方などの学習ルールが示されている
- ウ お互いの意見を聞きやすい机の配置がされている
- エ 意見を表明できる手段が整えられている

#### ②対話を取り入れた授業展開

- オ 教師の一方通行な関わりではなく、子どもとの双方向的な関わりがある
- カ 子どもの発言や意見を引き出す発問が工夫されている
- キ 友達同士の話し合いや教え合いの活動場面がある
- ク 小集団や一対一学習における対話的活動が工夫されている(仮想クラスメートの設定や遠隔授業の活用など)
- ケ 児童生徒の思考が可視化されている
- コ 学びや経験を活かして考えている
- サ 友達や教師を見て、モデルとする
- シ 他者と自分の考えを比較、関係づけ、結合する授業の流れが仕組まれている
- ス 素材や機器との対話がある。ものの素材感を感じている

- セ 児童生徒の学習状況を捉えた上で、新たな視点や学び合いの方向を示す言葉かけ等がある(存在の良さ・判断の良さ・効力の良さ・発想や考え方の良さが認められる)

#### ③対話を通じた共感的理解や多面的理解

- ソ 反対意見や間違った意見から学ぼうとする場面がある
- タ 相手の意見や考えの良さに気づく場面がある
- チ 相手の意見や考えを自分の意見や考えと比較して捉える場面がある
- ツ 相手の意見や考えを自分の意見や考えに取り入れる場面がある
- テ 生徒自身が自分の考えに対する危うさを感じる場面がある
- ト 本音やまともでない思いを出し合う場面がある

#### ④多様なコミュニケーションの工夫

- ナ 言語表出や言語理解が困難な場合にICT機器等が活用されている
- ニ 言葉だけでなく表情や動作を用いた豊かな表現が工夫されている
- ヌ 場面に応じた言葉の使い方や声の大きさが示されている

### (3) 深い学びに向かう視点

#### ①豊かな体験的活動がある

- ア 五感(見る、聞く、話す、触れる、味わうなど)や第六感(経験的な推量や判断など)を使った活動が工夫されている
- イ 観察や実験、模擬的体験や作業などの活動が組み込まれている
- ウ 校外学習や学校行事等と関連させた学習活動が工夫されている

#### ②自分で考え、工夫する

- エ 授業の中で気づきや発見がある
- オ 自分で調べて、考えをまとめる活動がある(インターネット等の活用)
- カ 考えを深めたり、困ったりした時のサポートツールが準備されている
- キ 課題に沿って試行錯誤しながら解決していく活動の流れが仕組まれている
- ク 自分やみんなの考えを確かにしていく過程が仕組まれている

#### ③学んだことを生活や社会に生かす

- ケ 他者の意見や情報を取り入れて自分の行動や考えを見直す場面がある
- コ 学んだことと生活場面を関連づけて考える場面がある
- サ 学んだことを実際の生活の中で生かす方法を考える場面がある
- シ 学んだことを社会に生かす方法(社会貢献)を考える場面がある
- ス 児童生徒自身の理解や思考・判断などの過程を捉え直す場面がある
- セ 理解の状況や結果、取組の姿勢・態度などを自分で診断・評価する場面がある
- ソ 満足感や成就感を味わい直して喜んだり自省したりする場面がある
- タ 自分の学びを捉え直し、見つめ直して、以後の学びにつなげる場面がある。

月	4月(3週)	5月(4週)	6月(4週)	7月(2週)	9月(4週)	10月(4週)	11月(4週)	12月(2週)	1月(3週)	2月(3週)	3月(2週)
A ☆	数量の基礎 【具体物】具体物に気付いて指を差す、つかむ、目で追う、目の前で隠されたものを探す、身近にあるものや人の名を聞いて指を差す 【ものごとを対応】ものごとを対応させて配る、分割した絵カードを組み合わせる、関連の深い絵カードを組み合わせる 【ものごとの分類や整理】具体物に注目して指を差す、つかむ、目で追う、形の区別、形が同じものを選び、似ている二つのものを結び付ける、関連の深い一対のものを絵カードを組み合わせる、同じもの同士を集めたりする 【具体物の大きさ】大きさや長さなど基準に対して同じか違いかによって区別する、ある、ない、大きい、小さい、多い、少ないで表現	数量と計算 【数えることの基礎】もの有無に気付く、目の前のものを1個・2個・たくさんで表す、5までの範囲で数唱をする、3までの範囲で具体物を取る、対応させてものを配る、形や色・位置が変わっても数は変わらない 【ものごとの分類や整理】もの属性に着目し様々な情報から同質なものや類似したものに気付く、ものごとの関係に注意を向けもの属性に気付く 【具体物の大きさ】大小や多少等で区別する、量の大きさを表す用語で表現する	B ☆	数と計算 【10までの数の数え方や表し方・構成】対応させて個数を比べて同等・多少・集まりと対応した数詞、集まりや数詞と対応した数字、個数を正しく数える、書く、二つの数の大小が分かる、数の系列・順序や位置を数で表す、0の意味、二つの数に分ける、一つの数のまとめる、加えたり減らしたりする目的・用途及び機能に着目して分類 【分類】色や形・大きさに着目して分類、身近なものを目的・用途及び機能に着目して分類 【身の回りにあるもの形】身の回りにあるもの形と丸や三角・四角、縦や横の線、十字、△や□をかく、大きさや色など属性の異なるものを形の属性に着目して分類・集める 【二つの量の大きさ】長さ・高さ・高さ及び広さなどの量の大きさ、二つの量の大きさを一方を基準にして相対的に比べる、長い、短い、重い、軽い、高い、低い、広い、狭いなどの用語 【ものごとの分類】身近なものを目的・用途・機能に着目して分類 【同等と多少】対応させることによる同等や多少が分かる、個数に着目した絵グラフ、多少の読み取り 【○×を用いた表】身の回りの出来事から○×を用いた簡単な表の作成、簡単な表で使用する○×の記号の意味 朝・昼・夜、昨日と今日、土曜と日曜は休み、買い物(お金)で買える、50円、100円、200円で作るもの、いろいろなお金の種類と分類	C ☆ ☆	数と計算 【100までの整数の表し方】20までの数について数詞を唱える、数える、書く、大小を比べる、100までの数について数詞を唱える、個数を数える、書く、数の系列、2ずつや5ずつのまとまりで数える、10のまとまりとして数える、10のまとまりと端数に分けて数える、書く、分配、等分 【加法と減法】加法の意味、加法の立式、式の読み取り、1位数と2位数との和が20までの加法の計算、減法の意味、減法の立式、式の読み取り、20までの数の減法 【形】形に着目、特徴の捉え、形を作る、分解する、前後・左右・上下など方向や位置・形を見付ける、形を作る、分解する、形を図形として捉える、形の観察、認識、特徴 【角の大きさ】角の理解、角の大小 【量の単位と測定】長さ・広さ・かさなどの量の直接比較、幾つ分かで大きさを比較、長さ・広さ及びかさの大小 【時刻や時間】生活の中の時刻、時間の単位(日・午前・午後・時・分)、時刻と生活の結び付け 【事象を簡単な絵や図・記号に置き換える】簡単な絵や図に表して整理する、読み取る、データを簡単な記号に置き換え比較して読み取る、個数の把握や比較のために簡単な絵や図・記号に置き換えて簡潔に表現する 【時計】○時、短針と長針、午前と午後 【カレンダー】日にちと曜日、カレンダーのしくみ、誕生日や行事・祝祭日 【買い物】値段表・見本とおりにお金を出す、いろいろな硬貨を使用して500円までのお金を出す	D ☆ ☆ ☆	数と計算 【1000までの整数の表し方】1000までの数をまとまりで分割して数える、分類して数える、3位数の表し方、十や百を単位としてみるなど数の相対的な大きさ、3位数の数系列・順序・大小について、数直線上の目盛り、数の表記、積などほかの数と関係 【加法と減法】2位数の加法と減法の計算と筆算、簡単な3位数の加法と減法、加法と減法における加法と減法の計算機利用 【乗法】乗法を用いる場合と意味、乗法の立式と読み取り、乗法の性質、九九 【図形】直線、三角形と四角形、正方形と長方形及び直角三角形、箱の形、直角・頂点・辺及び面、基本的な図形の作図、簡単な図表、正方形・長方形及び直角三角形の作図、制作、数え詰め 【量の単位と測定】原点と測定の方法、長さの単位(mm・cm・m・km)や重さの単位(g・kg)と測定、かさの単位(ml・dl・l)と測定、長さ・重さ及びかさの見と単位の選択、計器を用いた測定、目的に適した単位で量の大きさを表現・比較 【時刻と時間】時間の単位(秒)、生活に必要な時刻や時間 【表やグラフ】簡単な表やグラフに表す、読み取る、データの整理・考察 【お金】両替、お金の数え、値段を見てお金を出す、買い物、自動券売機、自動販売機、公共電話、携帯電話、予算内の買い物 【時刻と時間】長針と短針の動きをかた、○時前、○時ちょうど、○時過ぎの時刻の読み方 【カレンダー】カレンダーの仕組みや使い方、和暦と西暦、誕生日や年月の流れ(去年・今年・来年)	E ☆ ☆ ☆ ☆	数と計算 【10000までの整数の表し方】4位数までの十進位取り記数法と数の大小・順序、10倍・100倍・1/10の大きさ、千を単位としてみるなど相対的な大きさ 【加法と減法】3位数や4位数の加法と減法の計算と筆算、加法と減法の意味、加法と減法における加法と減法の計算機利用 【乗法】1位数と1位数との乗法、交換法則や分配法則 【除法】除法を用いる場合と意味、除法の立式と読み取り、除法と乗法との関係、除数と商が1位数の除法の計算、余りの意味と求め方 【小数】端数部分を小数で表す、1/10の位までの小数 【分数】1/2・1/4など簡単な分数 【関係を表す式】関係を式に表す、式と図の関係、□を用いて関係を式に表す、□に数を当てはめて調べる 【図形】二等辺三角形・正三角形の意味と関係、二等辺三角形や正三角形の作図、基本的な図形と関連した角、平行と垂直、円の中心・半径及び直径、球の直径 【面積】面積の単位(cm <sup>2</sup> ・m <sup>2</sup> ・km <sup>2</sup> と測定)、正方形と長方形の面積 【角】角と回転、角の単位(度:°)と測定、図形の角の表現、比較、考察 【伴って変わる二つの数量】変化の様子を表す式や式で表す、変化の特徴・考察 【二つの数量の関係】割合、図や式 【データ】日時や場所の観点からの分類及び整理、表や棒グラフ、折れ線グラフ、データの傾向と適切なグラフ 【お金】こづかい帳、レシートと領収証、預金と払い戻し 【時刻と時間】10分刻み・5分刻みの時刻、時刻から長針・短針を書く、1分刻みの時刻、何時間後、何分後、かかった時間、時刻と時間の関係、24時間単位の午前と午後、予定表、日程表、時刻表	F ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

国語科指導計画表		単元名	【新聞をつくらう】	指導時期	(7)月～(9)月
単元計画 全(10)時間 高等部段階で育てたい力 実質・能力/段階		(題材名・時間) ①「新聞を読んでみよう」(2) ②「新聞の作り方を知らう」(1) ③「新聞を作ろう」(7)			
A(知・技)		◎生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。(⑤)基礎基本の定着、教科学習		イ基礎学力の定着	
B(思・判・表)		◎生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。(⑤)基礎基本の定着、教科学習		イ基礎学力の定着	
C(学・人)		◎生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。(⑤)基礎基本の定着、教科学習		イ基礎学力の定着	
単元目標		① 目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶ。【A-イ】 ② 話の中心が明確になるよう話の構成を考える。【A-ウ】 ③ 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすることを意識して、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしたりして、文章の構成を考える。【B-イ】 ④ 内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える。【B-イ】 ⑤ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整える。【B-エ】 ⑥ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。【C-イ】 ⑦ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること【C-エ】 ⑧ 文章を読んだ上で理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと【C-オ】		① 目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討する。【A-イ】 ② 話の内容が明確になるよう話の構成を考える。【A-ウ】 ③ 目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。【B-イ】 ④ 内容の通った文章となるよう、文章全体の構成を考える。【B-イ】 ⑤ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。【B-エ】 ⑥ 事象と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。【C-イ】 ⑦ 目的を意識して、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。【C-エ】 ⑧ 文章を読んだ上で理解したことに基づいて、自分の考えをまとめると。【C-オ】	
【学習内容】○学習活動		○実際の新聞紙のそれぞれの面を要約し読み比べて、気付きを整理すること ○情報の中心から中心となる言葉や文、情報を適切に選択しながら、内容を捉えることができるよう ・見やすさに配慮して書見台や文字の拡大を行う。		【教材】 ・ICT機器(板書、拡大表示用)	
【学習内容】		○読み手が興味をもつための書き方の工夫を知る。 ○編集会議をする。		【教材】 ・ICT機器(板書、拡大表示用) ・ひとりだちするための国語(日本教育研究出版)P28 ・くらしに役立つ国語(東洋館出版社)P50	
【学習内容】		○記事を書く ○印刷し、発表したり配布したりする。		【教材】 ・ICT機器(板書、拡大表示用) ・くらしに役立つ国語(東洋館出版社)P50 ・パソコン、プリンター	
単元評価		A(知識・技能) ・新聞の特長や工夫について理解できたか。		C(主体的に学習に取り組む態度) ・新聞紙や記事の作成に興味をもち、進んで意見や感想を述べたり、記事の制作に取り組めたか。	
項目		評価(◎○△)		内容	
指導時期					
目標、評価、学習内容、手立て					
教材、場の設定					
育てたい力					